

アンドリュー・ ワイエスと 丸沼芸術の森 コレクション展



おうちで！

MoMCA の小さな図工室

ワイエスさんの視点でみてみよう

現在、岐阜県現代陶芸美術館で開催中の「アンドリュー・ワイエスと丸沼芸術の森コレクション展」では、アメリカの画家アンドリュー・ワイエスの水彩や素描（スケッチ）を34点紹介しています。

ワイエスが若い頃から親しんでいた水彩や、絵を構想するときにいつも用いていた鉛筆による素描には、画家の気づきや関心がより素直に表されているといえます。アンドリュー・ワイエスのまなざしに迫り、その視点を想像してみましょう。



展示室の様子



今、展示されている作品は、私が長年描き続けた「オルソン・ハウス」にまつわるものなんだ。

ワイエスさんが描いたもの



霧の中の家、えんとつ、古びた扉…

地味な題材？そうかもしれない。

けれども、この家が重ねてきた月日、メイン州の自然、

ここに暮らす人の生活、いろいろなものが、いつもの生活の景色のなかに詰まっている。

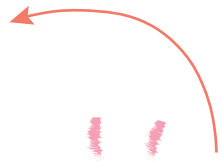
君にだってあるだろう？生活のなかで、ふと心ひかれる風景や瞬間が。

・・・アンドリュー・ワイエスさんは、オルソン・ハウスの日常を、こんな気持ちで描いていたのかもしれませんが。あなたも、ワイエスさんの視点を借りて、自分の身のまわりの、気になる風景をみつけてみましょう。

アクティビティ

ワイエスさんの視点でみてみよう

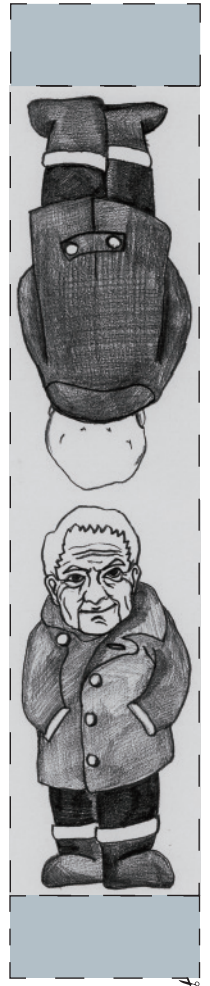
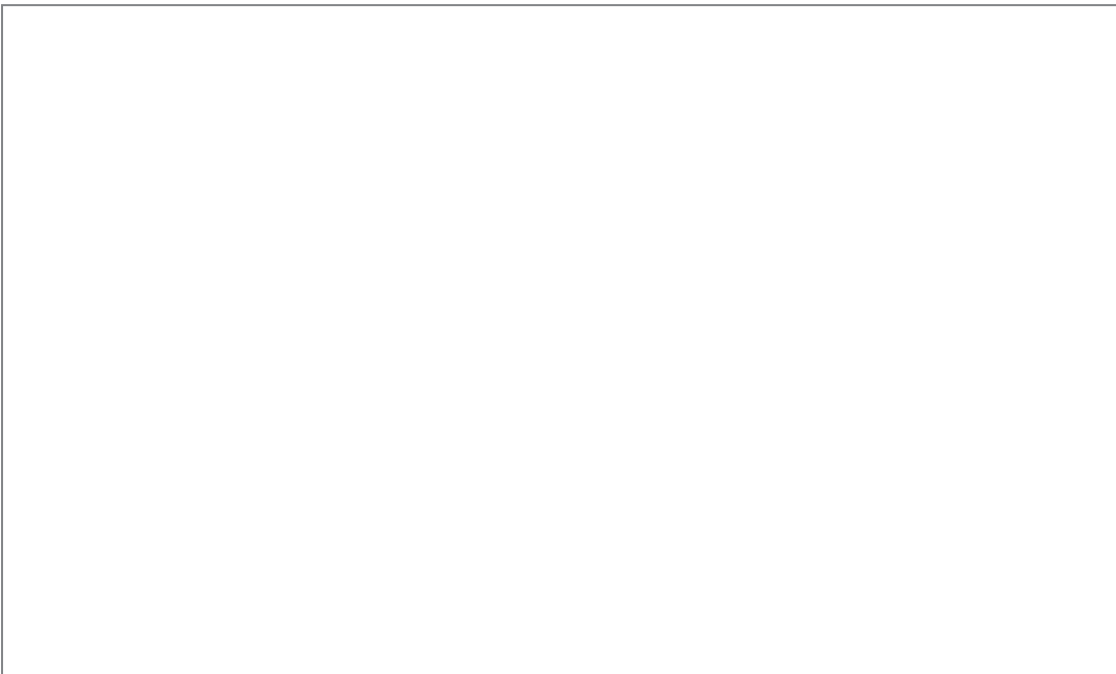
切って折ると、こんな感じになるよ！



切り取って使おう！
ワイエスさん人形

- 1 ワイエスさん人形をさまざまところに置いて、ワイエスさんの視点で自分の生活する空間を見渡してみましよう。ワイエスさんなら、どんなところに注目したでしょうか。自宅への道のり、玄関、廊下、リビング、寝室、窓やキッチン…

- 2 気になるところ、ちょっといいなと思うところを描いてみましょう。写真を撮ってみてもいいですね。



- 3 あなたはその光景の、何が気になったのでしょうか？色、光、音、におい、手ざわり、人の気配…スケッチや写真を見かえしながら、話をしてみましょう。



気になる風景は、みつかったかな？

アンドリュー・ワイエスさんはこんな人

1917年、アメリカ・ペンシルヴェニア州に生まれました。
お父さんは国民的なイラストレーターで、若い頃から絵の手ほどきを受けます。
生涯にわたって、生まれ故郷のペンシルヴェニア州と、夏の家があったメイン州を行き来し、アメリカの風景や自然、そしてそこに生きる人々を描き続けました。

オルソン・ハウスとは？

メイン州クッシングの海にほど近い丘の上に建つ家。ワイエスがここを訪れたとき、この家の住人はクリスティーナとアルヴァロの姉弟二人であり、二人は長い歴史を持つこの家の最後の住人でもありました。クリスティーナは年を重ねるごとに身体が動きにくくなる病気を患っており、アルヴァロはそんな姉を世話しながら働き暮らしていました。家と二人は、ワイエスが30年以上にわたって描き続ける大切なモチーフとなります。



岐阜県現代陶芸美術館
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu